



令和8年度「船上山トレッキング」実施報告書

I 事業の概要

1 期日 令和8年4月25日(土)

2 日程

9:00	受付
9:30	出会いのつどい
10:00	登山【後醍醐天皇の足跡を巡るコース】 自然の家～森林鉄道跡～西坂コース ～船上神社～頂上・薄ヶ原 ～下山～展望台で豚汁～自然遊歩道・茶園原 ～自然の家
15:20	感想記入 感想提出後、解散



3 ねらい 春の船上山登山を通して、自然と歴史に親しむ。

4 対象 小中学生とその保護者および一般(未就学児を除く) 30名程度

5 応募者数 7組15名

6 当日参加者数 5組10名

7 参加費 1人1000円



II 実施状況

■4月25日(土) 天候 快晴

天候に恵まれ、快晴となった。出会いのつどいで指導員紹介、参加者あいさつを終えると、船上山の新鮮な朝の空気を感じる中、西坂コースの登山を開始した。

登山中は小学校低学年の参加者の様子を特に見守りながら、休憩を早めにとるようにした。後醍醐天皇や船上山の歴史について、説明をしながら山登りを楽しんでいただいた。

予定通りの時刻に船上神社に到着すると、神社の参拝と記念撮影を行った。

頂上に着き、昼食と休憩を終えた後下山を開始した。足元が滑りやすくなっている箇所は注意を促しながら、慎重にゆっくり下山をした。

14時過ぎになると、東坂駐車場に到着した後休憩を終えると、展望台まで



移動した。展望台に参加者が到着する時間に合わせて、豚汁を他の職員に準備していただき、展望台に着くとすぐに豚汁を食べていただくことができた。毎回トレッキングで提供している豚汁は参加者に好評で、今回も参加者に満足していただくことができた。

豚汁をいただいた後、15時過ぎに自然の家に帰着した。参加者に感想を書いていただいた後、解散となった。



以下に当日の指導員による解説内容を紹介する。

【鳥居】

- ・船上山は「せんじょうさん」と読む。山自体が信仰の対象となっている山については「さん」と呼ぶ。近隣には大山、三徳山などがある。

【茶園原奥側】

- ・(船上山を指しながら)「船上山」という名前の由来について、昔は「船をひっくり返して、伏せたように見ていたから」という説と、「近くに流れる川を船に乗って登っていたから」という説がある。

【森林鉄道跡】

- ・昔は枕木を運ぶときに、線路を設置してトロッコで運んでいた。現在は線路を外されて整備され、西坂登山道とをつなぐ登山道として利用されている。

【西坂コース入口】

- ・後醍醐天皇は隠岐の島から脱出した後、名和(現在の大山町)に流れ着いた。その後、名和長年により保護され、西坂登山道を通して頂上に登ったとされている。

【船上神社】

- ・船上神社の奥に後醍醐天皇が滞在していたという説がある。
- ・神社のそばの大スギは樹齢1000年とも言われている。
- ・一万円札のモデルの渋沢栄一は船上神社の改修に携わった。

【行宮碑】

- ・行宮(あんぐう)とは天皇が外出して滞在していた場所を指す。
- ・天皇が滞在していた場所については、船上神社や頂上付近などはっきりしていないことから、頂上付近を行宮と呼んでいる。

【東坂登山道 籠立て場】

- ・後醍醐天皇は100余りの兵で天皇を追ってきた3000の兵に対して勝利した。
- ・後醍醐天皇は京に向かう際に東坂コースを通った。
- ・籠に乗って移動した際、この場で休憩をして船上山に別れを告げたとされている。

【やましゃくやく】

- ・環境省が絶滅危惧種に指定している希少な山野草。

【ギフチョウ】

- ・名前の由来は岐阜で発見されたから。「春の女神」「春の妖精」とも言われている。



Ⅲ 総括

Ⅰ アンケート結果

《参加者の満足度》

(参加者5組)

- ① 事業全体の満足度：満足4組 やや満足1組
- ② 登山の楽しさを感じる事ができた：満足5組
- ③ 同じような企画があればまた参加したい：満足5組
- ④ 施設的环境、職員の接する態度：満足5組

《参加者の感想》(抜粋)

- ・ 大変だったけど、最後豚汁を食べれてうれしかったです。これからも船上山のお泊りや山のぼりに参加したいです。
- ・ 鳥や花の名前などを知れてよかった。
- ・ 楽しかったです。今回は歩くことメインでしたが、いろんな野草をもっとゆっくり見る回があっても楽しそうだと思います。
- ・ 今日は少し疲れたけどとっても楽しかったです。
- ・ 疲れたけど楽しかった。

2 成果

- ・ 豚汁が好評だった。
- ・ 指導員による歴史や自然の解説が好評だった。
- ・ クマスプレーの携帯やクマすず等の準備、事前の下見によって参加者の安心安全に努めることができた。

3 課題

- ・ 今回は晴れていたのですが外で昼食をとれたが、雨天となって山頂避難小屋の中でとる場合、参加者定員の30人が参加した場合は難しい。
- ・ 登山で歩いて登る速さについて、今後も参加者の状況を確認しながら調整する必要がある。
- ・ 本年度は船上山周辺では熊を見たという情報がないが、今後もクマすずやクマスプレーを準備して注意を払っていく必要がある。

